

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077900159		
法人名	医療法人 福田病院		
事業所名	グループホーム とまと	ユニット名	もみじ
所在地	福岡県三潨郡大木町大字大角1133-3		
自己評価作成日	平成26年9月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年10月24日	評価結果確定日	平成27年1月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室に担当職員がいる。入居者から要望等を聞きだし、外出は担当職員と行き、信頼関係の構築を図っている。ケアプランでは本人の希望、家族の要望を取り入れ実践している。また、入居者の健康維持ができるよう、毎週木曜日に主治医より往診していただいている。職員においては、毎月テーマを変え勉強会を実施し、更なるレベルアップに努めている。地域行事では見守り隊への参加、よど祭り・左義長への参加など地域の一人として活動している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑が多く残る周辺環境の中にあり、ゆとりある広さの開放的な生活空間が印象的な事業所である。開設9年目を迎え、下校時の子ども見守り隊への参加や、事業所としての茶話会を開催する等、双方向での地域交流に向けて働きかけを重ねている。日常の関わりはもとより、各担当者によるセンター方式の活用や入居者懇談会の実施等を通じて、情報集約やコミュニケーションを重ね、潜在する力の発揮や本人本位の暮らしの再構築に結び付けている。また、専門職としての職員育成とともに、普通の感覚や馴染みの関係性を大切にしながら、心の通ったサービス提供を大切にしている。こだわりの食事作りやレクリエーションの工夫等、豊かな暮らしの継続や心身機能の賦活に向けた働きかけも行われており、入居者の方々の豊かな表情からも日々の取り組みが伝わってくる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議で意義の見直しや再確認を行い共有している。毎朝のミーティング時に唱和し意志統一を図り、理念に基づいたケアプランを行っている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を掲げ、カンファレンスの際には立ち戻る原点として位置付け、また、日々のミーティングや年間方針の作成を通じて共有を図っている。これまでに理念の再検討を経て継続となった経緯もあり、あらためて共有する機会ともなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加盟し、入居者の方と一緒に同地区の見守り隊に参加している。年に1～2回茶話会を開き地域の方を招いている。今年度も9月29日開催予定。	町内会に加入し、回覧板の受け渡しを行っている。茶話会の開催時には、近隣住民の協力を得て、地域への声かけが行われ、いきいきサロンや「子ども見守り隊」等の活動を通じて交流を図っている。法人の夏祭りは地域の協力も得ながら盛況に開催され、地域の「よど祭」ではカラオケに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館や隣接している特老の行事に参加し、地域の方と交流することで、認知症の行動に対し理解して頂けるように努めている。又、平成22年度から茶話会を実施して今回で5回目である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2回月に1回開催し入居者概要・介護度・年齢・活動状況・ヒヤリハット・苦情などの報告を行い、市町村代表や、区長、民生委員、家族代表と意見交換を行っている。又、意見を運営に反映させている。	家族が持ち回りで出席している運営推進会議には、地区代表、民生委員、行政担当者の参加を得て、定期開催されている。ヒヤリハット事例や制度に関して忌憚のない意見交換が行われていることが、議事録から確認できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、事業所の実情やサービスについての実態を知ってもらっている。ケアマネ連絡会を年4回実施し市町村担当者と共に意見交換を行っている。	運営推進会議には、行政担当者の出席を得ている。また、行政の声かけによるケアマネ連絡会の活動を通じて、情報共有や意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず年1回は全体会議で勉強会を行っている。身体拘束マニュアル、手引きも全職員が閲覧できる所に配置している。夜間のみ施錠を実施し、日中は全て開放している。利用者の行動を制限しない環境作りをしている。	内外の研修計画の中に位置付け、職員の意識や理解を深めている。また、内部研修に参加できない職員にも、資料閲覧を徹底している。日中は施錠されておらず、リスクに応じて服装チェックを毎朝行い、見守りの距離感に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、事業所内での虐待が見過ごされないように入居者のあざや、怪我に留意し、原因究明を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を実施し、全体会議で発表することで、他職員も権利擁護について学んでいる。	内部研修の実施や資料閲覧の徹底を図り、権利擁護に関する制度について、理解を深めている。今後は、家族や地域に向けた情報発信にも期待します。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、料金改定時には、十分な時間を確保し説明を行い理解、納得していただき、同意を得ている。疑問、質問等は随時受けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議にて幅広い意見が聞けるよう毎回違った入居者家族に参加依頼、協力を得ている。又、入居者懇談会・家族会を開催し、入居者や家族の要望も取り入れている。	運営推進会議には、家族が持ち回りで参加している。また、事業所の食事会や隣接する関連施設との合同行事等には、多数の家族の参加を得ており、コミュニケーションを深めている。家族アンケートを実施し、外出支援等、意見の反映に努めている。毎月の支払い時には記録を開示し、情報共有を図っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面談を行い、意見を引き出す場を設けている。毎月1回業務ミーティング時に職員の意見・要望を提案する機会があり、運営に反映している。	定例のミーティングの際には、職員の意見や提案の表出を促し、まずは実行してみるという姿勢で、運営への反映に努めている。また、会議の進行や書記を持ち回りで担当している。年2回、個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、個人面談を行っている。又フィードバック面接を行い要望を聴衆している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用時は制限を設けず、人柄や働く意欲のある人を重視している。また、幅広い年齢層の職員を採用している。研修や資格取得のためのバックアップ体制を取り、社会参加や自己実現の機会が得られるようにしている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。法人として、研修参加や資格取得に向けたサポートや人事考課の実施を通じて、モチベーションの確保や就業環境の整備に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に揚げ、職員は町で開催される人権および啓発活動の研修に参加している。研修内容は全職員で共有できるよう、報告の場を設けている。	行政が主催する人権研修への参加や内部での伝達、また、認知症ケアについて研修を重ねる中で、職員への人権教育、啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有すると共に研修参加を呼びかけている。又、全体会議にて研修報告の場を設けている。自己啓発の為、資格取得を志す職員に対しては勤務日程等の配慮を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している特老や同法人のグループホームの慰問に参加している。又入居者と相互訪問し交流を図ることでサービスの質の向上をさせる取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時本人より希望や要望を時間をかけて聞くように努めている。又、新しい希望や要望が見つかった場合には家族に報告し、解決を図り、安心することで信頼関係の構築を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットの配布や見学をしてもらい、雰囲気味わってもらっている。相談時や面接時に家族の意向を確認している。入居後しばらくは、要望等に対する報告を随時行い、家族との関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や見学時に本人や家族の希望を踏まえて必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応、説明を行っている。満床ですぐに入居できない場合、必要に応じ近隣の介護保険施設の紹介を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者主体の漬物作りを行ったり、生活歴に応じて園芸や野菜の収穫、野菜そろえや調理など職員と一緒に作業を行っている。日常的に共に過ごし支えあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、記録を開示し、日々の様子を伝えている。年2回家族も参加していただく催し(夏祭り、クリスマス会)を開催し、入居者とすごしていただくことにより、共に本人を支える機会を作っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より通われている食事処や美容室に出かけ馴染みの人と関係継続の支援に努めている。また、慣れ親しんだ場所へのドライブなど担当スタッフが支援している。	仏飯の御供を継続できるよう支援したり、自宅への外出や神社参拝等、担当職員による取り組みが行われている。家族との連携による馴染みの美容室の利用や、隣接する関連施設にて配偶者と面会できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の些細なトラブル等もミーティングにて共有し関係を把握することでテーブル席の配置を考慮している。又レクリエーションに声掛け参加を促し、孤立しないよう支援を行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所で契約が終了しても、時折お見舞いや面会を行っている。入居者も同行し面会する時もある。又再入所希望がある場合は可能な限り受け入れ態勢を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で想いや希望を聞き出している。入居者1人ひとりに担当職員がおり、普段言えない意向まで把握することが出来ている。困難な方はアセスメントより本人本位に近づく努力を行っている。	日常のかかわりの中で見出された言葉や表情、仕草等から、思いや意向を推し測り、職員間で共有している。入居者懇談会が開催されていることから、入居者本位の暮らしの実現に取り組んでいることがうかがえる。年に1回、各担当者により、センター方式を活用した情報収集が行われている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者より生活歴や環境サービス利用の経過等を聞き、把握できている。必用に応じ入居前施設に出向き経過を聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり24時間の過ごし方が一目で分かる生活日誌があり、毎日のバイタルチェックや過ごし方、状態変化等を記載している。又、朝夕の申し送りにて把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。各入居者に担当職員がおり、月に1度モニタリングを行い、6ヶ月に1度、又は状態変化に応じ介護計画を見直している。	ケアプラン実施記録には、主観的情報も含め、日常の暮らしの様子が丁寧に残されている。毎月のモニタリングやカンファレンス、3ヶ月毎の評価を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。家事手伝いや起立訓練、外出支援等について、個別のチェック表が作成されている。	ユニットにより異なるが、職員目録での課題解決ではなく、実践されている暮らしの営みの継続に向けた支援や、機能活用に向けた働きかけを盛り込む等、今後の働きかけが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活日誌に日々の様子や、ケアの実践・結果気づきを記入し、情報を共有している。又対応方法の変更の場合には職員が数日間試した事に対して記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫煙や飲酒などの制限をすることなく、入居者、家族の要望に答えている。個別の外出支援の際には、家族と一緒にいく場合もある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出時の捜査の協力を所轄の交番やタクシー会社に依頼している。公民館での行事、活動・見守り隊への参加を行い、地域の方と一緒に活動を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院以外でも受診を行っており看護師が直接担当医へ連絡し指示を仰ぐ事のできる関係である。毎週木曜日に担当医師の往診があり、緊急な場合の対応もできている。	家族との連携を図りながら、かかりつけ医や専門医への受診を支援している。また、協力医療機関からの訪問診療も実施され、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡が取れる体制であり、夜間の急変時も指示を仰ぐ事ができる。介護職員が気付いた状態変化はすぐに看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診付き添いの際、病室に立ち寄り、状態把握に努めている。地域連携室で情報交換ができ、必要時相談できる関係である。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者家族に看取りについての説明を行い同意を得ている。	入居時に、看取りに関する指針をもとに説明を行い、同意を得ている。隣接する関連施設や母体医療機関との連携も含めた対応が可能である。医療ニーズに対応する為の研修機会も多い。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事の対応について看護婦より内部研修を行い、全職員で共有している。緊急時の対応マニュアル等、目の届くところに配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導による避難訓練を年2回実施している。顔と誘導方法が解るように情報を記入したプレートを居室横に提示している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。防火シャッターや放水設備が設けられ、災害時には隣接する関連施設との連携も期待できる。飲料水や非常食、カセットコンロ等が備蓄されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のない態度で接している。必用に応じミーティングや全体会議で声掛けなどについて検討している。	プライバシーの確保や倫理・法令遵守等の研修を、年間計画の中に位置付けている。馴染みの関係性とプライバシーの確保を意識しながら、振り返りの機会を持っている。自室の施錠を希望される方にも、見守りの距離感を意識しながら支援を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方に情報を伝え、自己決定がしやすいような働きかけを行い支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体での援助を心がけ、入居者のペースで生活してもらっている。全体会議の場で入居者を第一に考えるように伝えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本2ヶ月に1回外部より理容訪問を受けている。入居者より化粧、髪染めの希望があれば職員が行っている。家族、本人より希望がある場合はなじみの理容、美容室へ行ってもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、入居者と一緒になって料理を行っている。苦手なものがあれば、材料を変え、好みに合わせている。入居者に食材切り、食器洗い、食器拭きなどそれぞれ役割を担って実施している。	地域の八百屋さんより野菜が届けられ、その他の食材も新鮮な物を求め、買出しに出かけている。見事な包丁さばきで食材を切る方もおられ、暮らしの営みの継続を支援している。たこ焼きやお好み焼、焼肉、舟焼き、バーベキュー等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。食事療法に関する外部研修参加や、看護師による栄養状態に関するアドバイスを得ている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量、水分量は記録している。献立によっては、キザミ食など必要に応じて提供している。又好みのものが摂取できるように家族の協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けが必要な入居者にはその都度確認し一人ひとりにあった口腔ケアを支援している。義歯洗浄も行い清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行っている。入居者の行動パターンを把握しパット使用量の減量に努めている。	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握につなげている。また、排泄ケアに関する外部研修参加や内部での伝達を通じて、職員の理解や意識を深め、個別のより良いケアの実践に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて確認し、牛乳や繊維物を取り入れたり、運動や腹部マッサージにて自然排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	より家庭に近いリズムで生活してもらっている為、午前と午後に設けている。入居者に意思確認し入居者の意向に合わせている。浴室の窓からは庭を眺めることができ、木々を楽しめる環境にある。	毎日入浴の準備を行い、その日の希望や体調等に合わせて、柔軟な支援に努めている。各ユニットに庭園が眺められる個浴槽が2ヶ所設けられ、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、室温、衣類等の調節に気を配り、自宅で使い慣れた寝具類を持参して頂き、安眠を確保している。入眠時間や起床時間は本人のペースに合わせており、本人の生活パターンに合わせた援助を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果、注意事項等が記された用紙を個人記録に綴っておりいつでも確認できている。内服の変更、副作用については看護師より説明、又は申し送りにて伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前看護師をされていた入居者様に、他入居者の方のお世話をさせていただいている。(身体的に負担にならない程度)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出、買い物、市外の神社へ参拝に出掛けたりしている。季節毎に花見等も行っている。馴染みのある美容室への外出も家族の協力を頂き連れて行ってもらっている。	外出支援表を作成し、個別の状況を把握している。中庭や隣接する関連施設の広い敷地等、気軽に日光浴を行える環境である。各担当者による自宅や神社参拝等の支援が行われている。	個別の外出支援の充実を課題としてとらえている。法人としてのスケールメリットの活用や体制の工夫等を検討している。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承のもと、自分で小額を所持されている入居者様もいらっしゃる。金庫で預かっている入居者の方でも希望時には必要に応じ渡している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方に住んでありなかなか面会できない入居者には希望に応じ電話を入れている。母の日など贈り物が届いたときには御礼の電話を入れている。2ヶ月に1度手紙や生活の様子を写真を添えて送っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの温度・湿度を定期的にチェックし管理している。季節の花をホールに飾ったり、季節に応じた装飾を行い、季節を感じられるようにしている。日めくりカレンダーも設置している。テレビの音量も入居者の希望に応じて調整している。	明るく、開放的な生活空間が印象的であり、ソファや食卓がゆとりをもって配置されている。リビングからはスロープの設置により、直接中庭に出ることが出来、時にはバーベキューを楽しむこともある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が談話したり、テレビを見たり、自由にできるようにしている。中庭には椅子を置き日光浴もできるなど仲良く過ごせる場を提供している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある家具、寝具等の持参をお願いしている。希望に応じテレビ、お位牌等も持ち込んでもらっている。	リビングスペースから離れた場所に居室が配置され、プライバシーにも配慮された造りとなっている。テレビやソファ、箆笥等が持ち込まれ、各担当者による居室作りが行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで段差がなく手摺やスロープが設置されている。各居室には名札や写真を飾りわかりやすいようにしている。可能な限り自力での移動、動作を支援している。		